

テーマ別研修



外国人幼児等の言葉を育む

—小学校での生活や学習を意識して—



はじめに

【本講座の目的】

- 1 外国人幼児等が小学校入学後に出会う言葉（日本語）に関する課題を知る
- 2 外国人幼児等の言葉の育ちを捉え、育む援助の在り方を学ぶ

【キーワード】

子供の戸惑い 言葉の育ち 生活言語と学習言語

【本講座の構成】

- 1 外国人幼児等が小学校入学後に出会う課題と幼児教育に期待すること
- 2 言葉の育ちを捉え、育む保育の工夫—幼児期の終わりまでに育ってほしいこと
- 3 小学校入学に向けて準備しておきたいこと

外国人幼児等もみんなと楽しく園生活を送っていました。
これなら小学校に行っても大丈夫と自信をもって送り出した
のですが...

小学校での様子を
知りたいなあ...
園で気を付けて
おくことって何？



何か困っている
ことあるかしら？
勉強のこと？
学校生活のこと？

1

外国人幼児等が小学校入学後に出会う
課題と幼児教育に期待すること

外国につながるのある幼児

1-1 幼児教育から小学校教育 変化への対応

学習

座っている時間・読み書き・思考する力

先生との関係

多くの人数に先生一人、言葉の指示が多い

身の回りの事

全てが初めての体験
保護者が日本の学校生活を知らないことも

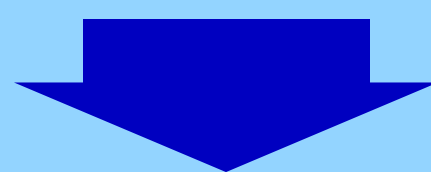
友達関係

新しい人間関係、子供一人一人精一杯
友達や周りの子の理解やサポートの期待が薄い

困難さを抱える子供が多くなる傾向 ➡ どのような支援が必要か

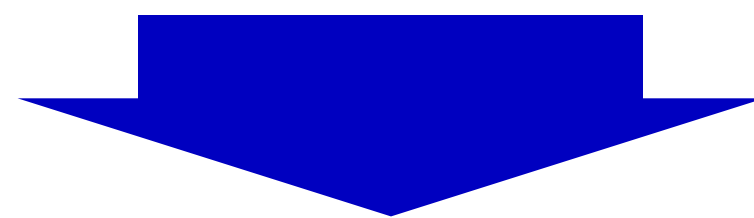
1-2 外国につながる児童・保護者との相談例 ①

就学相談時 「日本語は話せるから小学校でも大丈夫。心配はないです」



数か月後 学校についていけないから日本語のサポートをお願いしたい

- ▶ 幼児教育の場では友達と話をして行動していた
 - ▶ 教科学習が本格的に始めると困難さが目立ち始める
 - ▶ 周りの子と同じような動きが難しい。話の理解も…



「やっぱり日本語が理解できていないのかな」 ➡ 支援依頼

1-2 外国につながる児童・保護者との相談例 ①

(1) 生活言語と学習言語について理解する

「生活言語」

日常生活の具体的な事象や場面と関連が強い
センテンスが短い
お互いの関係性の中で使用

「学習言語」

場面や文脈の依存度が少ない言語
抽象的思考
教科学習に必要な概念や認知が求められる

「日本語指導が必要な児童生徒」とは (文部科学省調査での定義)

- ① 日本語で**日常会話**が十分にできない者
- ② 日常会話ができても、学年相当の**学習言語**能力が不足し、学習活動への参加に支障が生じている者

- ・ 理解語彙、文字や読み、概念の獲得等の違いから困難さを抱えるケースが多い。
- ・ 小さい頃から日本語に触れた方が日常会話の習得は早いですが、学習面は逆の場合も。

※ **日本語の力は日常会話の力だけではない** 発言内容にも着目 **記録も活用**

1-2 外国につながる児童・保護者との相談例 ①

(2) 日本語の活用状況を踏まえた支援

家庭で

- ・家庭で使っている言語？
- ・保護者の日本語理解度の状況？
- ・日本語の力を把握？
- ・日本語の力を育む意識や機会？
- ・日本の学校のイメージ？

幼稚園・保育園で

- ・活動中での関わりが中心
- ・他と同じように行動できるかを意識
- ・一人一人の発言の確認まではしにくい
 - 理解して行動している？
 - 理解しているように見えている？

意識しないと見えにくい日本語の力…どのような支援が必要？

(3) 連携の大切さ（園・保護者・小学校）

子供の様子について連携できていますか？

大丈夫です

→何やってるんだろう
→ちゃんとしようね

**日本語の
理解が心配**

→各地域自治体の日本語支援
→教室内での配慮(先生の意識も違うかも)

支援の遅れにならないように

1-3 外国につながる児童・保護者との相談例 ②

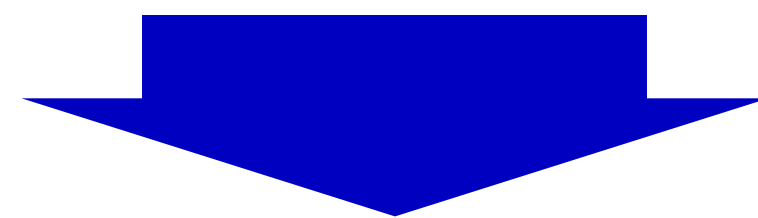
幼稚園に1年近く通ったけど、
日本語がぜんぜん上手にならなかったんです…

母 「子供の**日本語の力が思ったように伸びなかった**」

▶ 家庭では英語を使って会話している

▶ 恥ずかしがり屋で自分から話すのが苦手？

▶ 幼稚園の先生が英語を使ってサポート



母 「**小学校で心配だ**」 と相談に

1-3 外国につながる児童・保護者との相談例 ②

(1) 「先生の言葉の大切さ」についての理解

「先生が英語を話せたから、英語で支援をしていた…」

- ・ **先生方の言葉は最大の日本語のモデル**
- ・ **園全体で「言語を育む場」としての共通意識があったか？**
 - ➡ 日常の中で、意識しながら支援していく

(2) 日本語を「学び使う機会の大切さ」についての理解

日常の活動が「話す・聞く」力を育む場になる

→「できた・言えた・伝わった・分かってくれた」という機会を多く作っていく

「言葉で表現する力」と「成功体験や自信等の心」を育む機会

1-4 外国につながるのある子の**傾向性を理解して支援を**

一人一人、家庭環境や言語環境等が異なりますが、様々な困難さが見られます。
傾向性を理解した上で支援を行っていく事が大切です

1 日本語の**基盤の弱さ**

言葉の壁 語彙量 知らない事が多い 文化の異なり

2 日本語の**積み上げの難しさ**

習得の困難さ 概念形成から 繰り返しながら使って

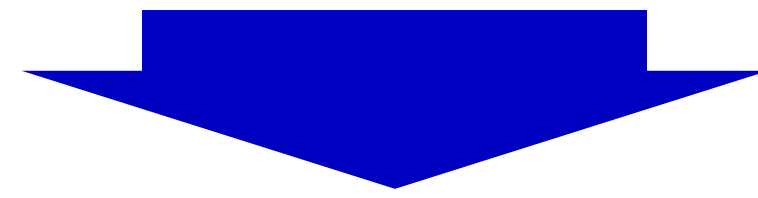
3 日本語を**学び使う機会の少なさ**

普段は他の言語を使用(外国語) 学び使う機会を多く

自然に学ぶであろう言葉を吸収していない ➡ **「学んだことしか知らない」傾向**

1-5 日本語の力を育むために

今、行われている「活動」や「関わり」の中で
「日本語を育む視点を」もつ



言葉を**増やす**

基礎的な関連語彙

- ・物の名前
- ・身の回りの言葉
- ・体験や経験で使う言葉
- ・日本の文化的な内容

言葉を**豊かにする**

多様な表現や広がり

- ・別の言い方
- ・関連する言葉
- ・場面や内容理解
- ・概念形成、考え方

言葉で**表す**

場面の様子や気持ち

- ・相手意識や関わり
- ・伝える言葉を学ばせる
- ・発話を待って聞く
- ・**伝える、伝え合う経験**

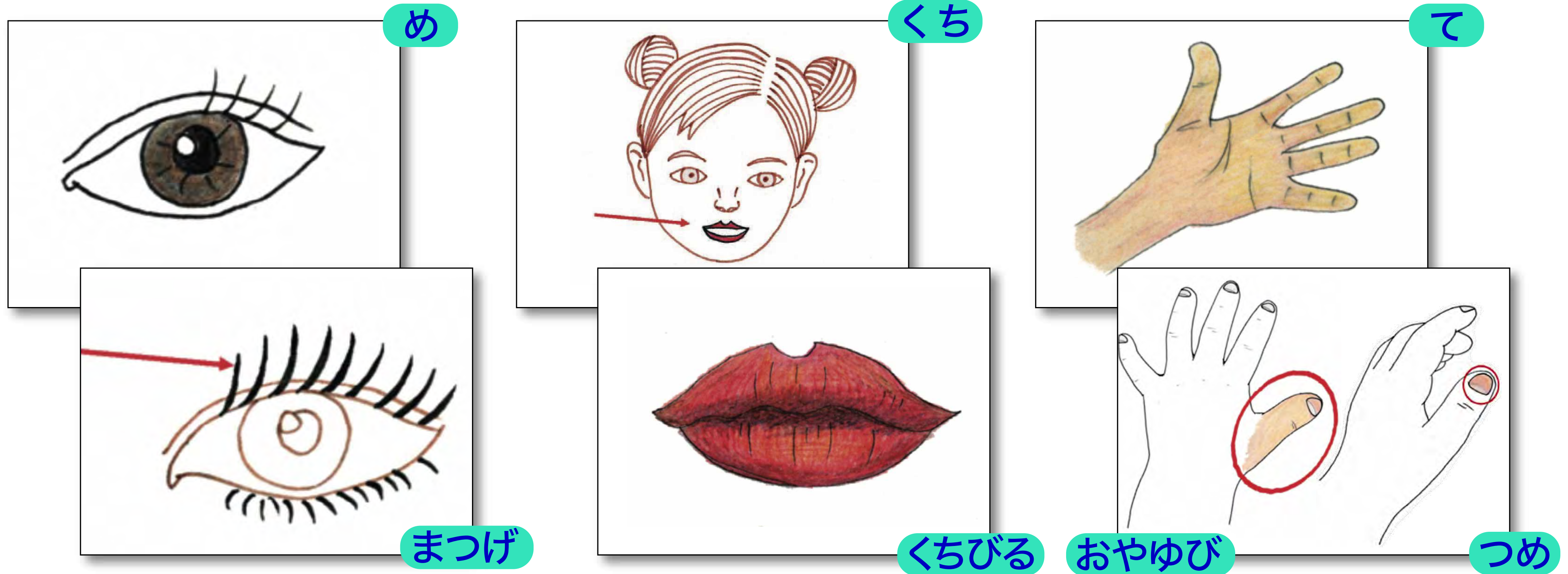
幼児教育の現場を「豊かな言葉の学び場」に

1-5 日本語の力を育むために

(1) 言葉を「増やす」

対話型アセスメント

出典：外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント DLAの語彙チェック



➡ まず基礎的な語彙は知っている？

高頻度の言葉・低頻度の言葉 語彙の量 少ない頻度の言葉も意識し、使い、言わせてみる

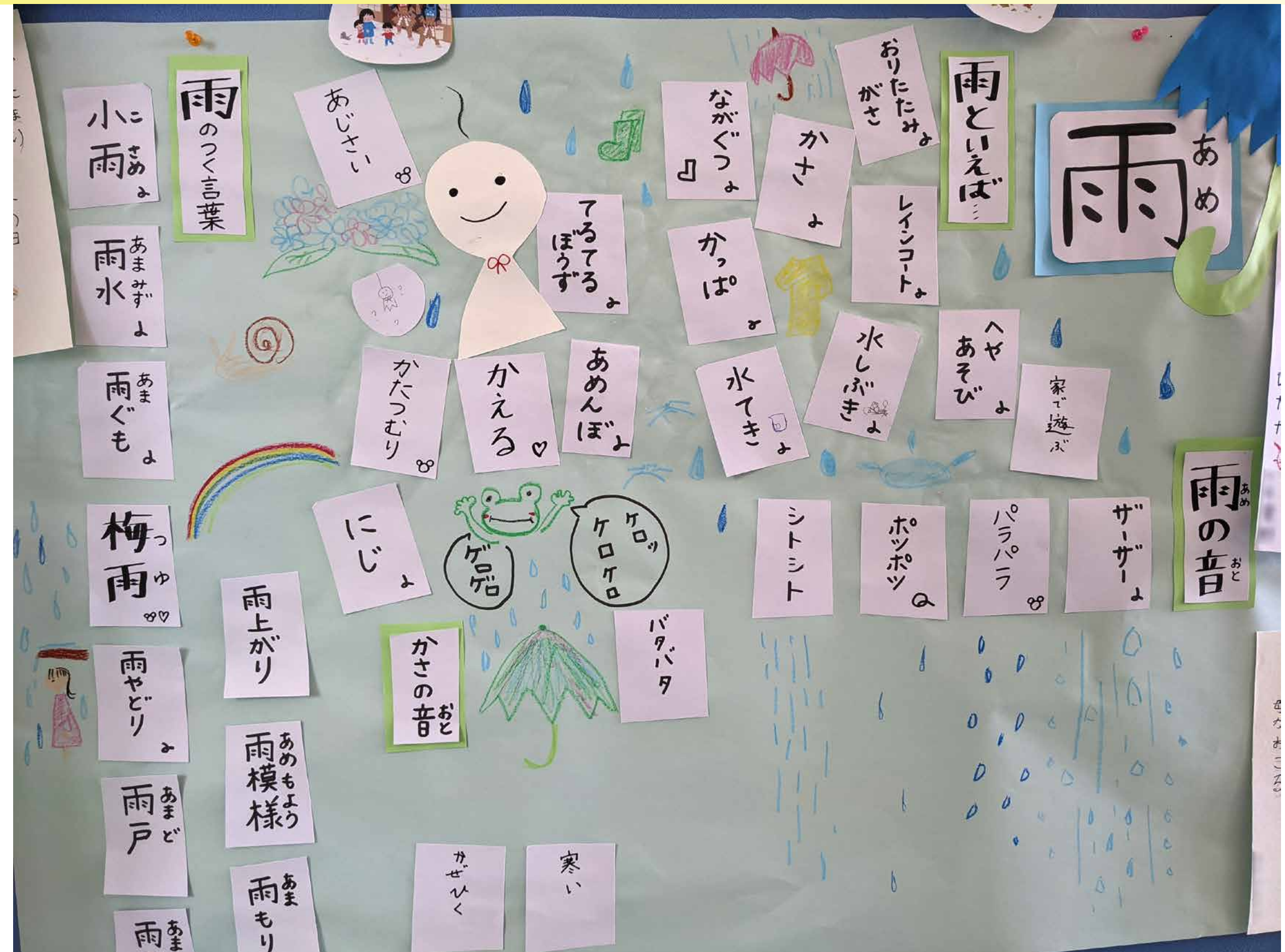
1-5 日本語の力を育むために

(2) 言葉を「豊かにする」

日本語教室の掲示物「雨」

- ・雨といえば…
- ・雨のつく言葉
- ・雨の音

知ってるよ！
聞いたことある



(3) 言葉で「表す」

言葉の多様な表現や広がりを意識する

1-6 算数の学習で

1年生 いくつですか

1. 2. 3....

- ○わ、○だい、○さつ ➡ ○ほん、○ひき
- 1つ...5つ 6つ ➡ 2つずつ
- 4にん ➡ 4にんめ
- 2と3で5 ➡ 5は2と3
- ぜんぶで、あわせて、
- のこりは、ちがいは、
- あそびに いきました、きました

場面や文脈を読み取る難しさ

計算ではない面でもつまずきが

1-7 国語の学習で

音読

むかしばなし？
おむすびごろりん
ももたろう
うらしまたろう…

「かぎとかぎ」
さるのだいじな
かぎの**たば**
げんかん **うらぐち**
まど **とだな**
どれが**どれだか**
わからない
さる **さる**
こま **ごま**
ふた **ぶた**

おいしい
おむすび
あいうえお

1-8 「言葉の育ちは子供の育ち」園全体で言葉の力を育む支援を…

多様な“場面”や“興味・関心”を大切にしている幼児教育の強みを生かしながら

集団遊び

個別の体験

歌

絵本

造形

飼育

当番

など

言葉を**増やす**

言葉の力を意識

- ・言葉の力を育む関わり
- ・表現を促し高めていく

言葉を**豊かにする**

豊かな経験

- ・季節や行事、体験、読書
- ・言葉を豊かに

言葉で**表す**

情報共有と連携

- ・保護者等とも共有
- ・必要な支援につなげる

一人一人に応じた支援の充実 ➡ 他の子供たちの豊かさにもつながる
「多文化共生の礎を築く支援」



言葉の育ちを捉え、 育む保育の工夫

— 幼児期の終わりまでに育ってほしいこと —

2-1 言葉を育むための保育者の援助とは

多様な場面や幼児の興味・関心を引き出しながら、園全体で外国人幼児等の言葉を育む援助を進める必要がある。

- ・保育者が言葉を育む視点をもって意識して関わる
- ・それぞれの幼児の状況に応じて関わる

言葉の育ちを
的確に捉える

園生活の中で
言葉を育む



保育者



2-2 言葉の育ちを捉え、育むために

(1) **日常の会話の中で**外国人幼児等が使っている言葉や対話から言葉の育ちを捉え、育む。

(2) **意図的に問いかけて**外国人幼児等の反応から言葉をどの程度理解しているかを確認、育む援助をする。

(3) 言葉の育ちを捉える視点を『語彙調査』から学ぶ。



2-2 言葉の育ちを捉え、育むために

(1) 日常の会話の中で言葉の育ちを捉える具体例

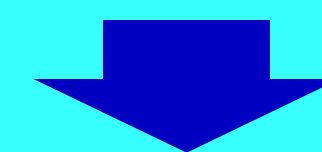
事例1 「ボールをあげた？」

ボール遊びの場面。A児が使いたかったボールをB児が譲ってくれた。A児は、保育者に「Bちゃんが僕にボールを**あげた**」と嬉しそうに言ってきた。



保育者が「**よかったね**。Bちゃんがボールを**くれたから**嬉しいね」と笑顔で応じると、A児は嬉しそうにうなずいた。

保育者は、A児の嬉しい気持ちを受け止めると同時に、A児が「**くれた**」という言葉を知らないことに気付く。



A児の気持ちに寄り添いながら、A児の言葉を言い換えて適切な言葉を知らせる。

保育者の気付き（捉える力）や言葉に対する感覚が的確な指導につながる。

2-2 言葉の育ちを捉え、育むために

(2) 意図的に問いかけ、言葉を育む具体例

事例2 「上のカゴ」と「下のカゴ」



お面を上下2段のカゴに片付ける場面。
保育者はC児に「イヌのお面は**上のカゴ**に入れてね」と言うと、C児はお面を上に入れた。

次に「サルのお面は**下のカゴ**に入れてね」と頼むが、C児はまた**上のカゴ**に入れた。

保育者は「ありがとう。でも、サルのお面は**下のカゴ**に入れてほしいの」「**下のカゴ**はどこかな」と「下」という言葉を言いながら、C児と一緒に下のカゴに入れ直した。



「上」と「下」を意図的に問いかけることで、言葉の意味を理解しているかが分かる。

言葉の理解度を見極め、具体的に示しながら、「上」「下」という言葉を使う。

位置や空間の関係を表す言葉等、難しい言葉は意図的に問いかけ、確認する。

2-2 言葉の育ちを捉え、育むために

(3) 言葉の育ちを捉える視点を『語彙調査』から学ぶ

外国人幼児等が、小学校生活を安心してスタートするために

- ・学習場面で知らない単語が出てきて、先生の話が分からなくなる姿
- ・幼児期の終わりまでに、外国人幼児等が知っておいてほしい言葉は？

➡ **言葉の育ちの視点を語彙調査から学び、園生活の中での的確に捉えよう**

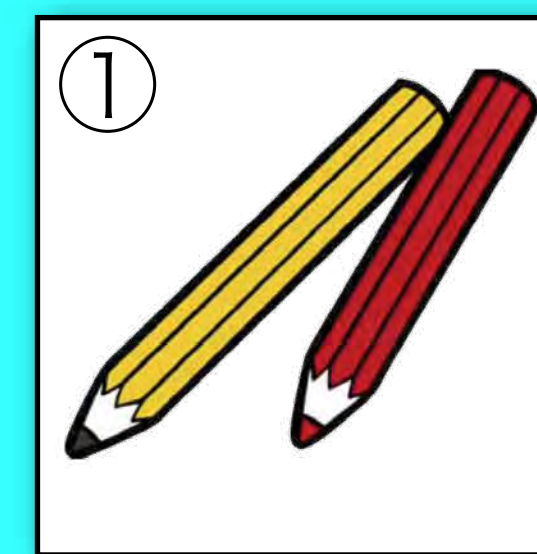
《語彙調査》（参考例：愛知県プレスクール実施マニュアルP30, P84より）

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/0000028953.html>)

モノの名前、表情や場面の言葉、動作を表す言葉など、小学校1年生の生活レベルに必要な語彙（100語）について、語彙調査カードを使って、理解度を調べる調査方法

- ※ **質問例** ➡ ・ 絵①を見せて、質問する。「これはなんですか。」「えんぴつ」
・ 笑っている顔の絵②を見せる。「どうしましたか?」「笑っている」

- ※ **言葉の育ちを捉える視点の理解を深めるために**、このマニュアルの第3章 2「子どもの2言語習得と家庭」や 3「多文化共生と外国人の子ども」の解説も参考にするとよいでしょう。



2-3 幼児の言葉の育ちを捉え、言葉を育む際の留意点

(1) 言葉が伝わる嬉しさを味わえる関わりを重ねる

- ・ 言葉を育む援助は、単に使える言葉を増やすのではなく、伝わる嬉しさ、伝える楽しさを大切に育む。
- ・ 自分が表現したら伝わった、もっと伝えたい、もっとコミュニケーションをとりたいという意欲を大切に作る。
- ・ 入園当初から幼児の思いを受け止め、コミュニケーションを工夫し、言葉を育んでいくが、5歳児では特に言葉の育ちの状況を意識して捉え、育む。

(2) 保育の中で言葉の育ちを的確に捉える

- ・ 外国人幼児等が相手の言葉を自分で考え理解しているか、周囲の動きを見て判断していないかを見極める。
- ・ **位置や空間など**、外国人幼児等が分かりにくい言葉は意図的に使って幼児の動きから言葉の育ちを捉える。
例：「入り口に並ぶ」「背の高い順に並ぶ」「2列で並ぶ」等

2-3 幼児の言葉の育ちを捉え、言葉を育む際の留意点

(3) 日本語のモデルとなるような表現をする

- ・ 助詞を省略せずに整った文にして表現する。
例：「A さん来た」でなく「A さんが来た」
- ・ 時には丁寧な表現をする。
例：「お客様がくださった」「ありがとうございます」等

(4) 多様な表現に触れる機会をつくる

- ・ 同じ動きでも、**多様な言い方**で話しかける。
例：「〇〇さんに持って行って」「…に渡して」「…に届けて」等
- ・ 幼児が「知らない言葉」を日常の場面で使う。
例：おむすび・おにぎり 煮る・茹でる 炒める・焼く等

(5) 幼児の状況に応じて寄り添い支えていく

- ・ 外国人幼児等の母語で「おはよう」等の挨拶をしたり身振りで親しみを表す。
- ・ 園に慣れて、自分の思いを日本語で話そうとする姿があれば、言葉を育む関わりを少しずつ進めていく。

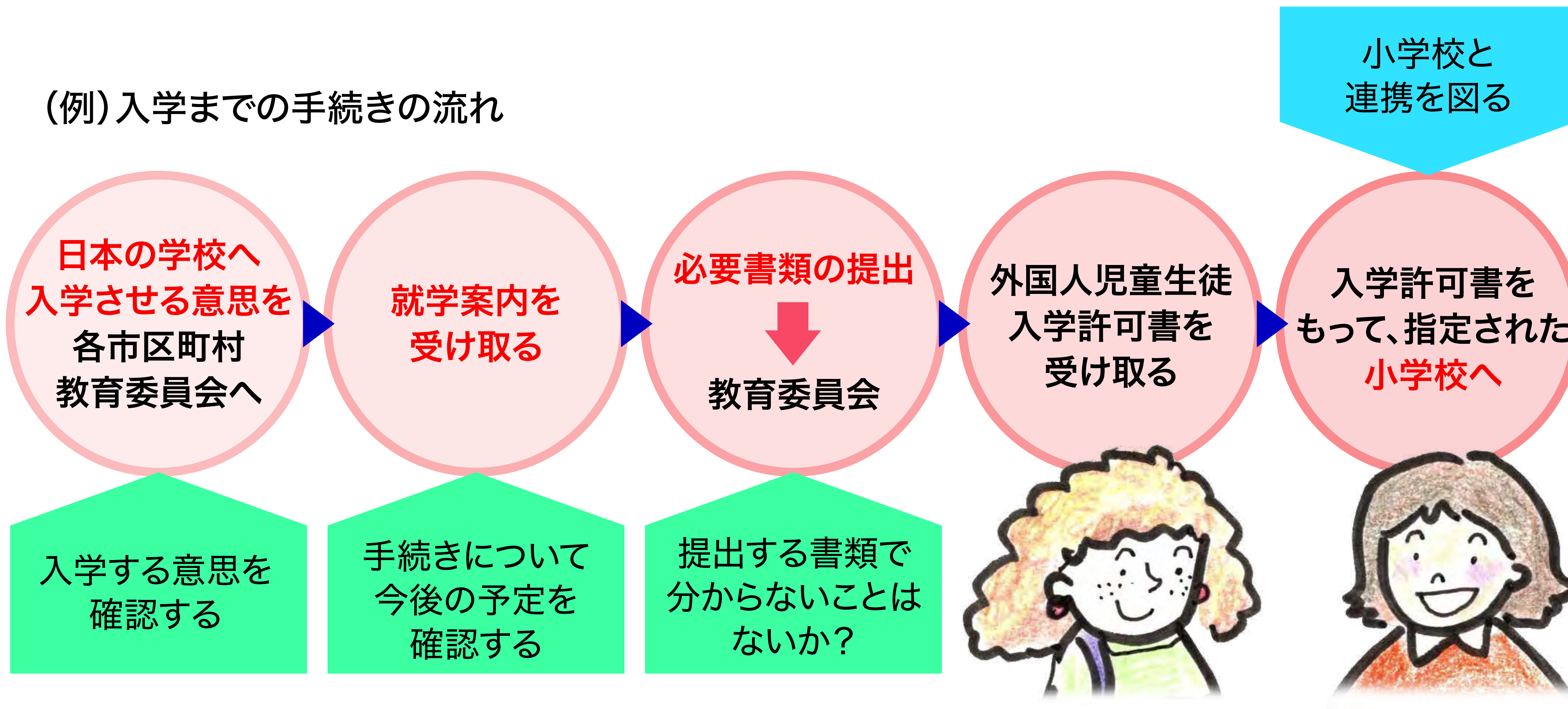


小学校入学に向けて
準備しておきたいこと

3-1 保護者と共に進める小学校入学の手続き

入学までの手続きの流れを保護者と共に確認する。

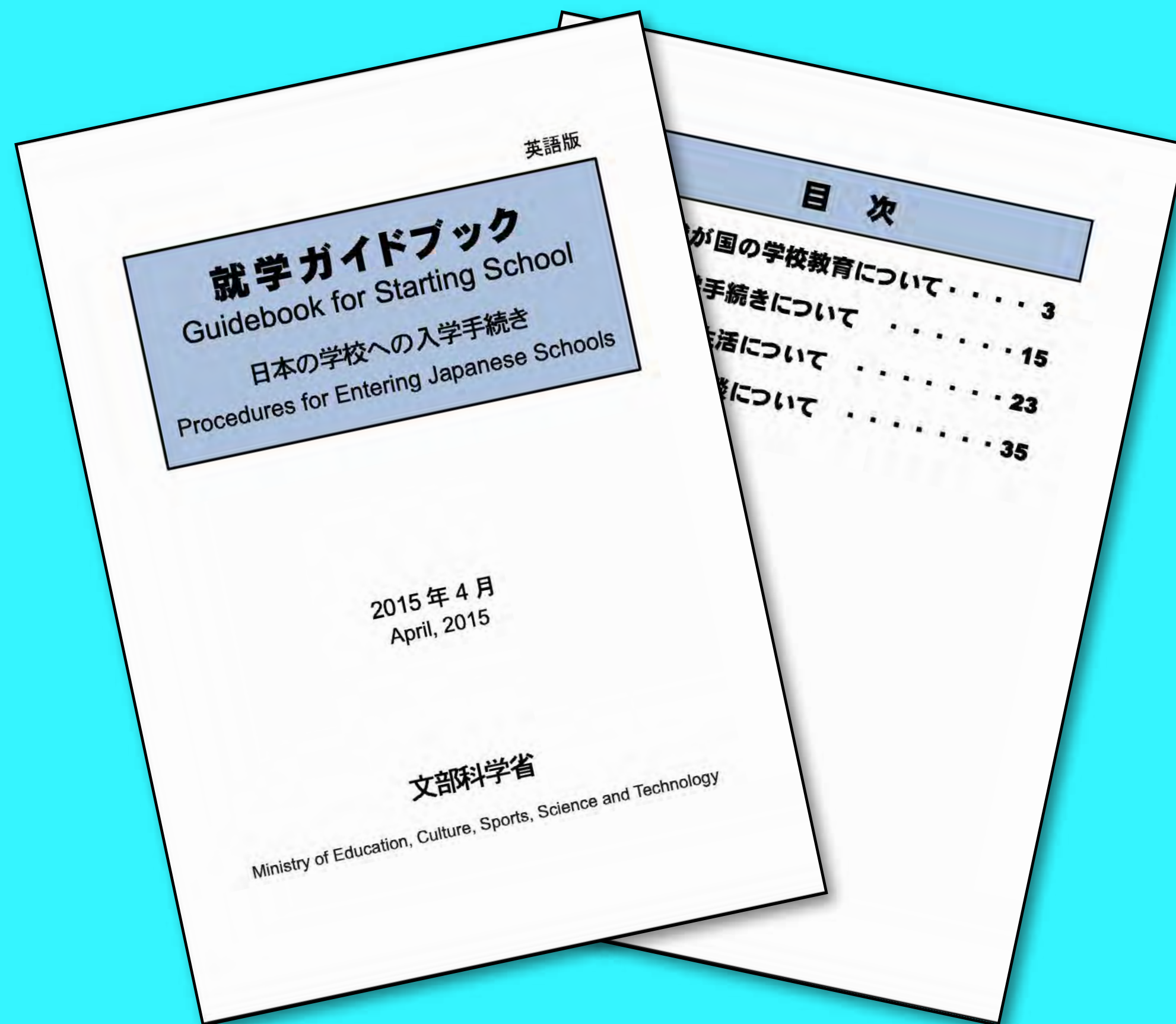
(例) 入学までの手続きの流れ



3-2 保護者に説明する際の参考資料

就学ガイドブック(文部科学省)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1320860.htm



内容

- ・ 学校教育制度
- ・ 就学手続き
- ・ 学校生活等

8か国語に翻訳

英語／韓国・朝鮮語／ベトナム語／
フィリピン語／中国語／ポルトガル語／
スペイン語／ウクライナ語

※各地方自治体でも同じようなガイドブック
を作成しています。(2022.10.26 閲覧)

3-3 入学前に小学校に伝えたいこと



幼稚園・保育園 認定こども園

- ・ 外国人幼児等の**言葉の育ち**や**コミュニケーション力**
- ・ **指導の過程**や**配慮点等**を伝える

小学校

入学後に安心して
学校生活が送れる
ように準備する

日本語教室

日本語支援員

配布物の翻訳等